

主な補正内容

地震調査研究推進本部地震調査委員会が公表した日本海南西部の海域活断層の長期評価（第一版）による影響を確認し、玄海原子力発電所の基準津波の見直しに係る原子炉設置変更許可申請を2024年7月25日に行いました。

当社が評価していた壱岐北東部の断層群と警固断層帯の一連の活断層（壱岐北東部・警固断層帯）による地震動の最大加速度は、従来策定した基準地震動（Ss-1）を下回りますが、これまでの国の審査を踏まえ、基準地震動（Ss-1）と同じ最大加速度かつ、当該断層の特徴を考慮した継続時間が長い基準地震動（Ss-7）を追加することとしました。

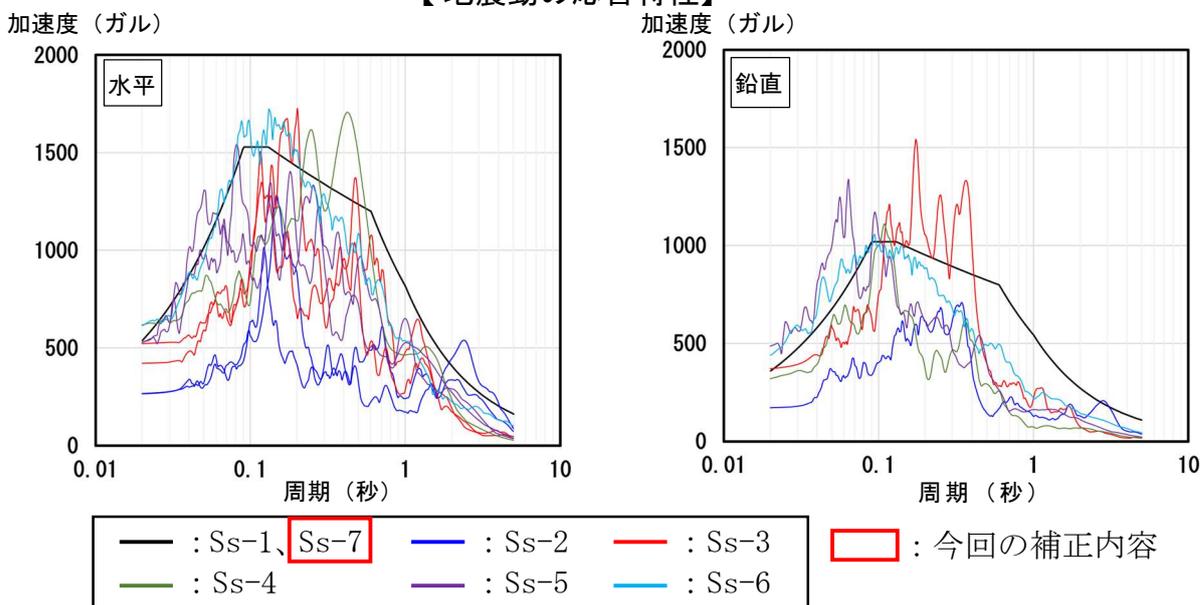
基準地震動（Ss-7）を追加しても、発電所の安全性に影響はないと考えています。

【地震動の最大加速度】

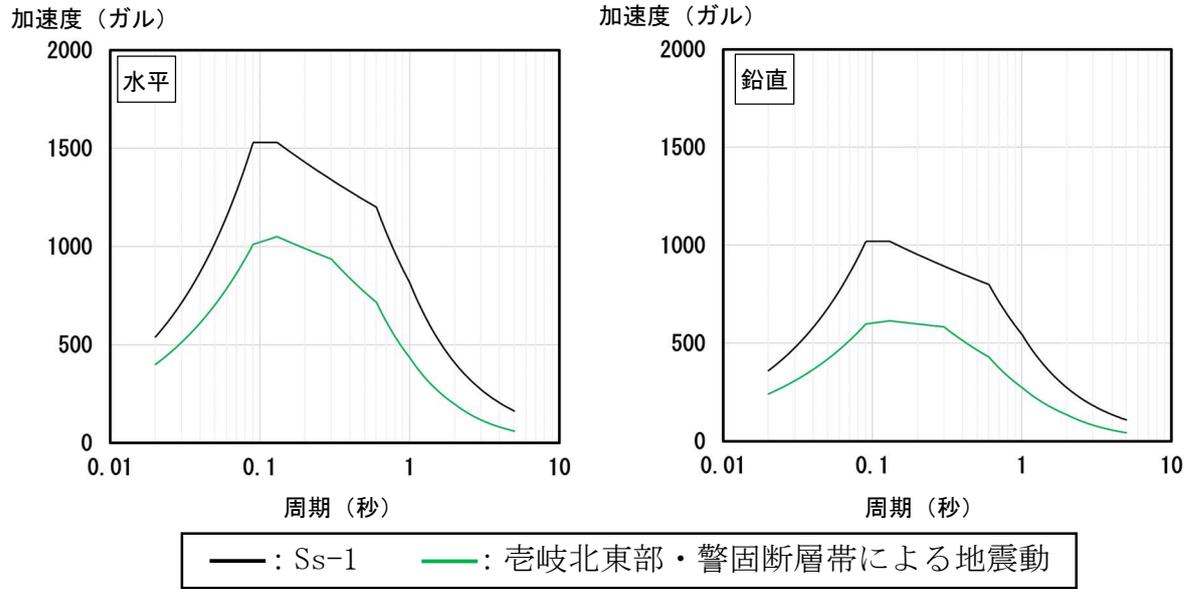
地震動			最大加速度(ガル)		継続時間 (秒)
			水平方向	鉛直方向	
震源を特定して策定する地震動	応答スペクトルに基づく地震動	基準地震動 Ss-1	540	360	29.8
		基準地震動 Ss-7	540	360	98.7
	断層モデルを用いた手法による地震動	基準地震動 Ss-2	268 [※]	172	47.7
		基準地震動 Ss-3	524 [※]	372	50.1
震源を特定せず策定する地震動	基準地震動 Ss-4 (留萌支庁南部地震)		620	320	20.5
	基準地震動 Ss-5 (鳥取県西部地震)		531 [※]	485	60.0
	基準地震動 Ss-6 (標準応答スペクトルを用いた地震動)		617	441	29.8

※東西方向と南北方向のうち、最大値を記載

【地震動の応答特性】



(参考) 基準地震動 (Ss-1) と壱岐北東部・警固断層帯による地震動の応答特性の比較



以上